取付説明書

洗面化粧台

ピアラ

●化粧台本体
AR1N-605SY、AR1N-755SY、AR1N-905SY
AR1H-755SY、AR1H-905SY
AR1FH-605SY、AR1FH-755SY、AR1FH-905SY
AR1CH-605SY、AR1CH-755SY、AR1CH-905SY

1. 取付前の注意

●取付けに際しては必ずこの取付説明書に従い正しく取り付けてください。
※この取付説明書に記載されていない方法で取り付けられ、それが原因で故障を生じた場合は、商品の保証を致しかねますので十分ご注意ください。
※水栓金具、電気温水器、即湯システムについては、それぞれ付属の説明書に従い正しく取り付けてください。
●「保証書（取扱説明書裏表紙）」は貴店名、取付日を忘れずに記入の上、必ずお客さまにお渡しください。
●取付業者さまは、商品に欠陥を生じさせる可能性を有しているゆえに、取付業者さまが欠陥を生じさせた場合は過失責任を負うことを十分認識いただき、お客さまが安全で快適にご使用できるようにご協力ください。
●付属部品の内容と数量が合っていることを確認してください。

安全のために必ずお守りください

ここでは取付けに際して守らないと人身事故や、家財の損害に結びつく注意事項を挙げています。
作業前にこの項目をよくお読みいただき、正しく取り付けてください。

用語および記号の説明

⚠警告 ‥ 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。

⚠注意 ‥ 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

⚠ ‥‥‥ 「注意しなさい!」（上記の『警告』、『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

⃠ ‥‥‥ 「してはいけません!」（一般的な禁止記号です。）

⃠ ‥‥‥ 「分解してはいけません!」

❗ ‥‥‥ 「指示通りにしなさい!」（一般的な行動指示記号です。）

⚠ 警告

●電気・水道工事は関連する法令・規定に従って、必ず「有資格者」が行ってください。
※火災や漏電、漏水を引き起こす恐れがあります。
●修理技術者以外の人は絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。
※ケガや故障が生じる恐れがあります。
●ストーブやヒーターなど熱を発生するものの近くに設置しないでください。
※変色や変形、火災をおこす恐れがあります。

⚠ 注意

●スライド蝶番の調整後は必ずAねじ、Cねじ、取付ねじが固く締め付けられていることを確認してください。
※締付けが不足しますと蝶番がゆるみ、扉の外れ、落下によりケガをする恐れがあります。
●温水を逆に配管しないでください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。
※感電やショートして発火することがあります。
●電源は必ず専用のコンセントからお取りください。また、コード類を束ねたまま使用しないでください。
※発熱の恐れがあります。
●浴室内などの高温多湿な場所や水が浸る可能性がある床面には設置しないでください。
※木部が水を含んで腐ったり、漏電や感電の恐れがあります。

お願い

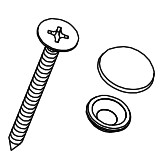
●直射日光が当たる場合は必ずカーテンなどでさえぎってください。また、スポット照明や殺菌灯を直接当てないでください。
※変色や変形の原因になります。
●不陸が5mm/2mを超える場合は必ず壁を施工しなおしてください。
※不陸があるまま取り付けるとキャビネットがひずむ場合があります。
●洗面器表面はキズつきやすいので次の点について注意して作業してください。
・キャビネットや工具などの固い物を洗面器上に落としたり、乗せてひきずったりしないでください。
・洗面器上に乗らないでください。
※洗面器にキズが付くと補修しても完全に元の状態には戻りません。
●酸性、アルカリ性および塩素系の洗剤類、ベンジン、シンナー、ラッカー、アルコールなどの溶剤や油類を使用して本体をふかないでください。
※変色や変形の恐れがあります。
●壁面工事や建築仕上げ工事に使われる溶剤・接着剤・洗剤・その他の薬品類は、容器などに記載の注意事項にしたがってお使いください。人体に影響が出たり、使用部材の損害や劣化の原因になります。
●排水栓に磁石を使用しています。
・心臓ペースメーカーなどの電子医療機器を装着した人に排水栓を近づけないでください。安全性の確認ついては電子医療機器の取扱説明書をご覧ください。
・排水栓を磁気カードなどの磁気記録媒体に近づけると、データが破壊されて使用できなくなる恐れがあります。また、精密電子機器に近づけると故障の原因になる可能性があります。

2. 付属部品

●洗面化粧台

	シングルレバーシャワー水栓
扉タイプ	AR1N-605SY AR1N-755SY AR1N-905SY
引出しタイプ	AR1H-755SY AR1H-905SY
フルスライドタイプ	AR1FH-605SY AR1FH-755SY AR1FH-905SY
ステップスライドタイプ	AR1CH-605SY AR1CH-755SY AR1CH-905SY
水栓金具	1セット
ウェットパレット	1個
ポップアップ排水栓セット	1セット
排水トラップ	1個
排水アダプター	1個
排水プレート	1枚
固定用ねじ（トラスφ4.0×50mm）	2本
取付説明書･取扱説明書	各1部
オーバーフローヘアキャッチャー	1個

表中A･Bは下記ビスを表します。

A	B
	
皿φ4.5×60mm 化粧キャップ用ワッシャー 化粧キャップ	ワッシャー付なべ φ4.5×60mm

●ミドルキャビネット

	ARK-252C
棚板	1枚
棚受けダボ	4個
固定用ねじ	B:4本

●アッパーキャビネット

	ARU-155C ARU-255C ARU-305C ARU-455C	ARU-605C ARU-755C	ARU-905C	ARU-605W ARU-755W ARU-905W	ARU-655FL（R） ARU-755FL（R） ARU-905FL（R）
固定用ねじ （ワッシャー付なべ φ4.5×60mm）	B:4本	B:4本	B:6本	B:6本	B:4本
キャビネット連結用ねじ （トラスφ4.0×25mm）	2本	—	—	—	2本
側板固定ねじ	—	—	—	—	A:4セット
マルチバー固定ねじ （止めねじφ4.0×50mm） （六角レンチ付）	—	—	—	—	6本

●対面収納キャビネット

	LCVS-372SA	LCVS-372SAN	LCVB-752SA
棚板	2枚	2枚	2枚
棚板受けダボ	8個	8個	8個
固定用ねじ（トラスφ4.0×50mm）	—	—	4本
固定用ねじ（ワッシャー付なべφ4.5×60mm）	B:4本	B:4本	—
キャビネット連結用ねじ（トラスφ4.0×25mm）	2本	2本	—

●トールキャビネット

	ARS-255 ARS-305 ARS-455	AR1S-305DL（R） AR1S-455DL（R）
棚板	2枚	2枚
棚板ダボ	8個	8個
固定用ねじ （ワッシャー付なべφ4.5×60mm）	B:6本	B:6本
キャビネット連結用ねじ （トラスφ4.0×25mm）	2本	2本
網カゴ	—	1個
タオル掛	—	1本
体重計収納	—	間口450サイズのみ1個

●ランドリーキャビネット

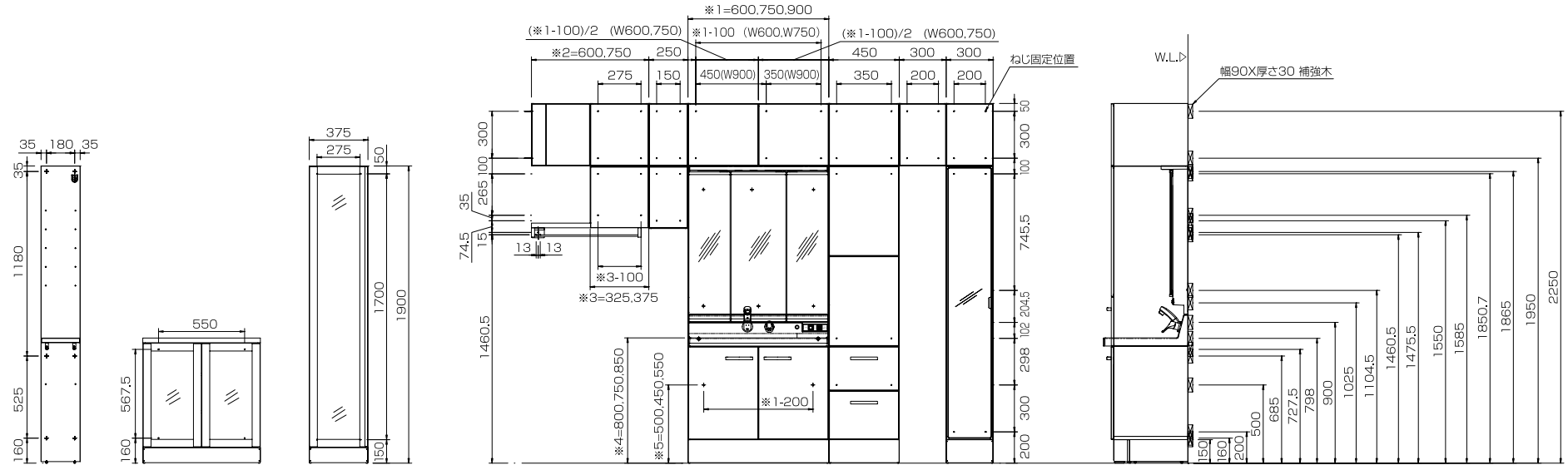
	ARK-655FL（R） ARK-755FL（R）
固定用ねじ （ワッシャー付なべφ4.5×60mm）	B:4本
固定用ねじ（皿φ4.0×45mm）	2本
連結ワッシャー	2個
化粧キャップ	2個
棚受けダボ	4個

●ランドリーキャビネット

	LCVKO-652 LCVKO-752
固定用ねじ（皿φ4.5×60mm）	4本
連結ワッシャー	4個
化粧キャップ	4個

●アッパーキャビネット
ARU-155C、ARU-255C、ARU-305C、ARU-455C、ARU-605C、ARU-755C、ARU-905C
ARU-605W、ARU-755W、ARU-905W、ARU-655FR（L）、ARU-755FR（L）
●トールキャビネット
ARS-255、ARS-305、ARS-455、AR1S-305DL（R）、AR1S-455DL（R）、ARK-652FL（R）、ARK-652FL（R）
●ミドルキャビネット
ARK-252C、ARK-652FL(R)、ARK-652FL(R)
●対面収納キャビネット
LCVS-372SAN、LCVB-752SA

3. 寸法図



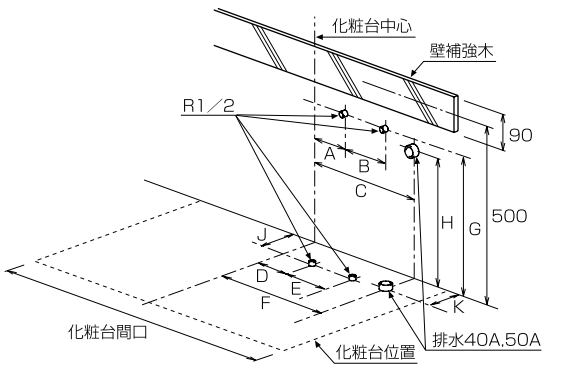
4. 取付前の確認

電気温水器･即湯システムについては、それぞれ付属の取付説明書をご覧ください。

1. 給水・給湯の確認
給水･給湯の条件、水栓金具の設置条件は別紙説明書（水栓金具に付属）をご覧ください。

2. 配管工事の確認
給水･給湯管および排水管が所定の位置に指定の給排水管仕様で取り出してあるか確認してください。

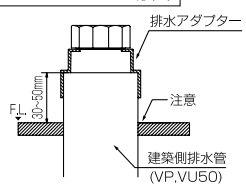
⚠ 注意
湯水を逆に配管しないでください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。



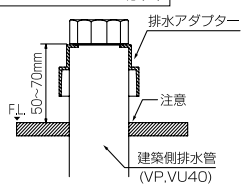
		標準取付時			電気温水器取付時		
		W600	W750	W900	W600	W750	W900
A		−30	20	20	50	50	50
B		100	100	100	—	—	—
C		205	280	355	—	—	—
D		−30	20	20	50	50	50
E		100	100	100	—	—	—
F		205	285	360	205	285	360
G	750	310	310	310	250	250	250
	800	360	360	360	300	300	300
	850	410	410	410	350	350	350
H	750	350	350	350	—	—	—
	800	400	400	400	—	—	—
	850	450	450	450	—	—	—
J		80	80	80	80	80	80
K		90	90	90	90	90	90

●床排水は下図のとおり取り出してください。

VP-VU50の場合



VP-VU40の場合



⚠ 注意
建築側排水（VP・VU管）は必ず指定の取出寸法範囲内で取り出してください。
※取出寸法が短いと、排水トラップと接続できず、漏水を引きおこす恐れがあります。

●壁排水の場合は市販の排水アダプターをご使用してください。
●建築側排水管と開口部にすき間がある場合は、シリコンでコーキングしてください。

3. 壁面工事の確認

⚠ 警告
取付強度を保てない場合、キャビネットが落下してケガをする恐れがあります。下記事項が守られていることを事前に確認のうえ、取付けを行ってください。
●この説明書に記載されている「キャビネットを取付可能な壁面」以外には、取り付けないでください。記載の条件を満たさない場合は、壁を施工しなおしてください。
●壁の不陸が5mm/2mを越える場合は、必ず壁を施工しなおしてください。
●壁固定ねじは指定のものを、指定本数使用してください。

乾式壁の場合
●幅90mm×厚み30mm以上の補強木を「ねじ固定位置」（3.寸法図参照）に必ず設けてください。
●補強木は必ず柱・間柱・縦桟木など建築躯体に固定してください。また、補強木の固定部材は、キャビネットの固定強度（図1乾式壁参照）と同等以上になるよう、種類・数を選定してください。
●壁固定ねじが補強木の中心に25mm以上かかるように固定してください。
●壁固定ねじを補強木に届かせるため、壁仕上げの総厚さは12.5mm以下にしてください。
●石こうボードなどで補強木が見えない場合は、工務店さまに位置および固定方法を確認してください。さらに針刺しなどで壁固定ねじの位置に補強木の中心があることを確認してください。
●リフォームなどの現場で補強木位置が不明な場合は、石こうボードなどをはがして確認してください。また、補強木がない場合は必ず補強木

湿式壁の場合
●コンクリートブロック壁の場合、中空部はモルタル詰めしてください。
●AYボルトを壁本体に届かせるため、壁仕上げの総厚さは20mm以下にしてください。
●壁固定ねじに合ったAYボルトを使用して、キャビネットを取り付けてください。

キャビネットを取付可能な壁面

図1 乾式壁

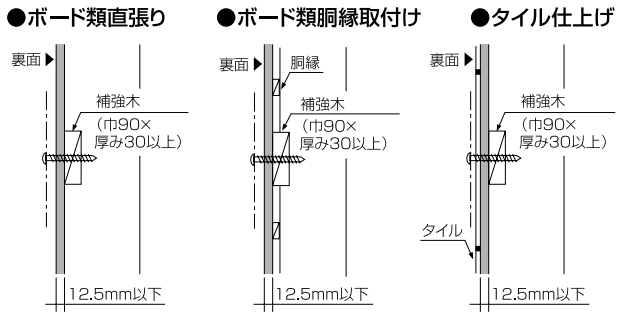
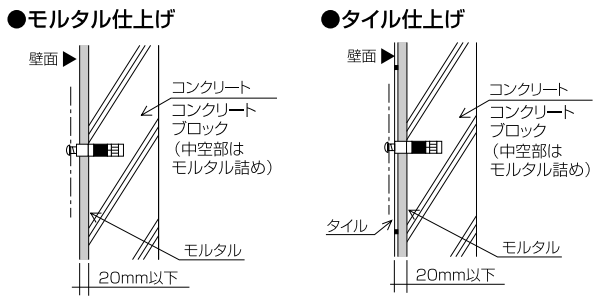


図2 湿式壁



※本文中のねじ固定に関する記載は、乾式壁の場合についてです。
湿式の場合は、下記要領で固定を行ってください。

〈湿式壁の場合の取付方法〉
①AYボルトの位置を確認し、位置出しをします。
②壁にφ7.5mmの下穴をあけ、切粉をよく取り除きます。
※下穴は電動ドリルを使用し正確にあけてください。
③AYボルトを挿入してゴム筒を押さえてボルトを抜き取ります。
④キャビネットを壁面に当て、ねじ穴からボルトで固定をします。

（別途手配）
AYボルト:#KB-4×60T(AY) ※φ4×60mm 2本入り
（取付穴7.5mm、深さ60mm以上）

4. 床面の確認
●設置する床は水平で著しい凹凸や不陸がないことを確認してください。
●床面は強固でグラつき、たわみが生じないことを確認してください。
※キャビネットがグラついたり、取付精度（納まり）が悪くなる恐れがあります。

化粧台の取付け

お願い

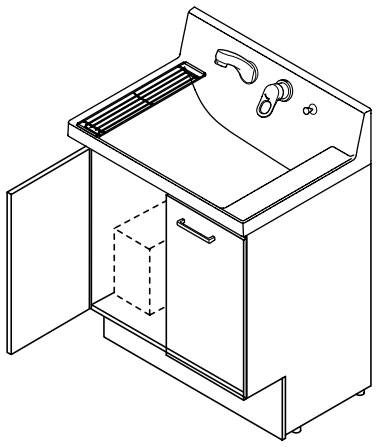
キャビネットの扉、アルミ枠タイプの扉は表面にキズが付きやすいため、取扱いには十分注意してください。

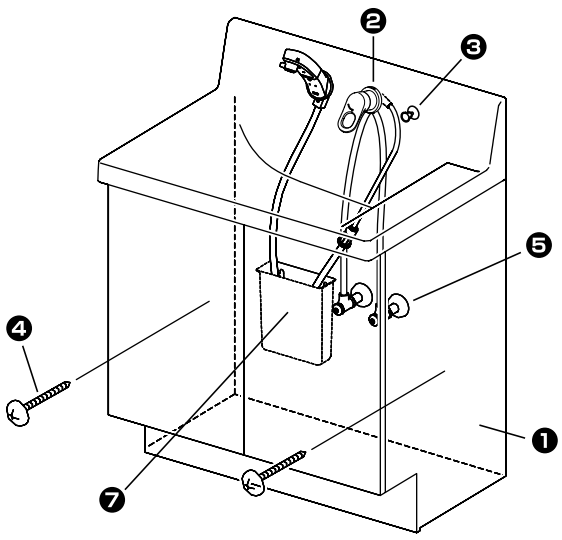
ワンポイント

●**キャビネットを壁に固定する際、扉が邪魔になるときは、扉を外して作業することもできます。**
※キャビネットの扉の着脱方法は、後述の「扉の取付方法」「扉の取外し方法」をご覧ください。扉を外した場合は、必ず扉を取り付けてください。

下記部材を取り付ける場合は、化粧台を壁固定する前に各部材付属の取付説明書をご覧ください。

●電気温水器を取り付ける

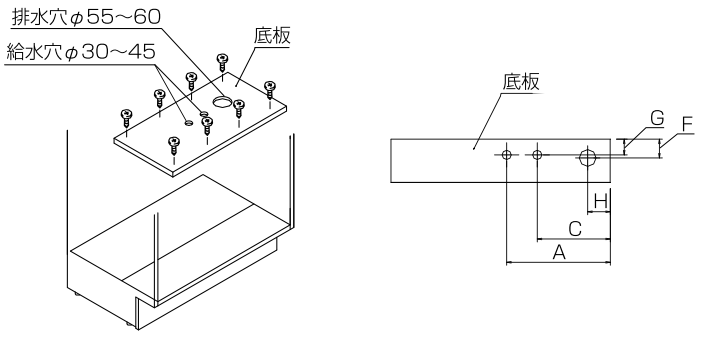




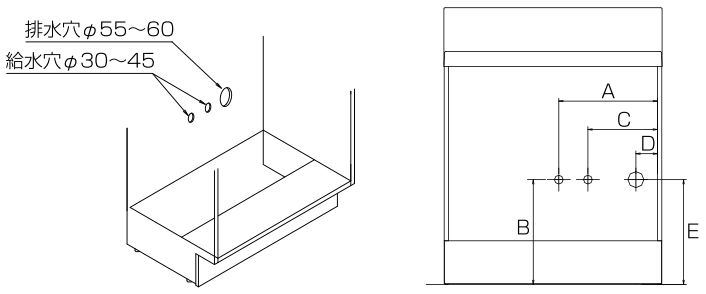
❶ ベースキャビネットの下準備
⇩
❷ 水栓金具本体の取付け
⇩
❸ 排水金具の取付け
⇩
❹ 洗面化粧台の取付け
⇩
❺ 止水栓の取付け
⇩
❻ 排水トラップの取付け
⇩
❼ 水受けタンクの取付け

❶ ベースキャビネットの下準備

床給水の場合



壁給水の場合



		標準取付時			電気温水器取付時		
		W600	W750	W900	W600	W750	W900
A		314	339	414	234	309	384
B	750	310	310	310	250	250	250
	800	360	360	360	300	300	300
	850	410	410	410	350	350	350
C		214	239	314	—	—	—
D		79	79	79	—	—	—
E	750	350	350	350	—	—	—
	800	400	400	400	—	—	—
	850	450	450	450	—	—	—
F		72	72	72	72	72	72
G		62	62	62	62	62	62
H		79	74	74	79	74	74

❷ 水栓金具本体の取付け

水栓金具付属の施工説明書をご覧ください。

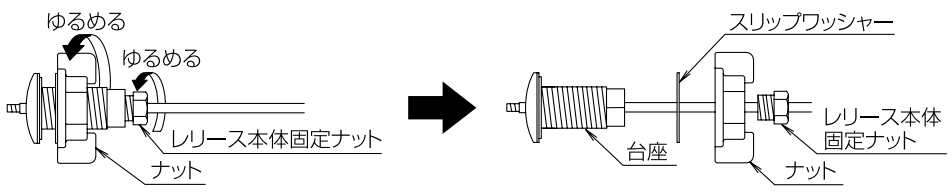
⚠ 注意

●**レリースの取付けは水栓金具を取り付けた後に行ってください。**
※水栓金具が取り付けられなくなる恐れがあります。

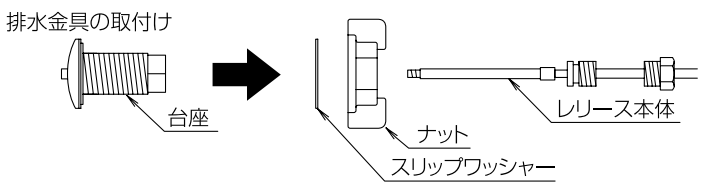
❸ 排水金具の取付け

※レリース本体は洗面ボウル裏面に取り付いています。

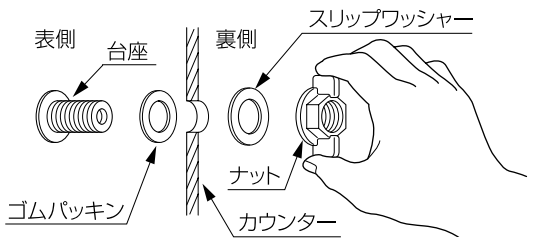
(1)レリース本体固定ナット、固定ナットをゆるめます。



(2)レリース本体、スリップワッシャー、ナットを台座から外します。



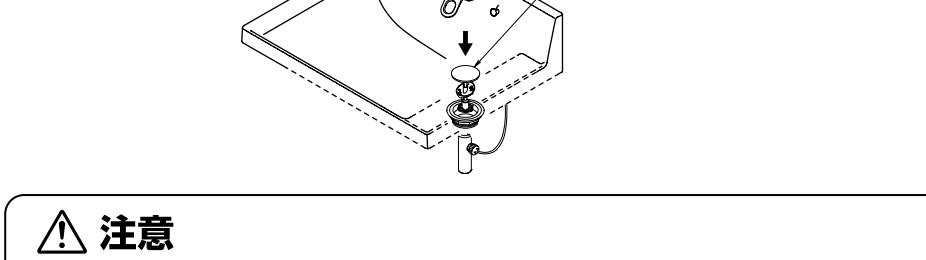
(3)洗面ボウルに台座を取り付けます。



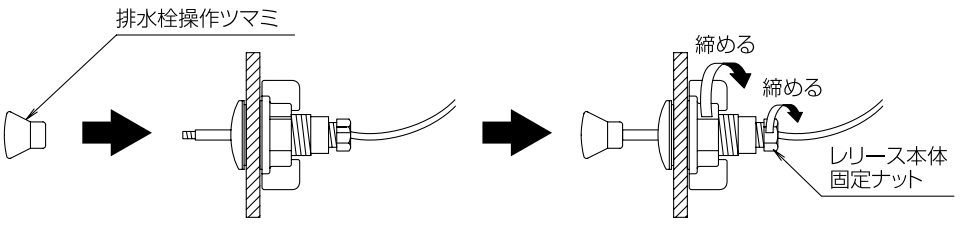
⚠ 注意

ゴムパッキンとスリップワッシャーの取付位置を確認してください。
※取付位置を誤った場合、漏水を引き起こす恐れがあります。

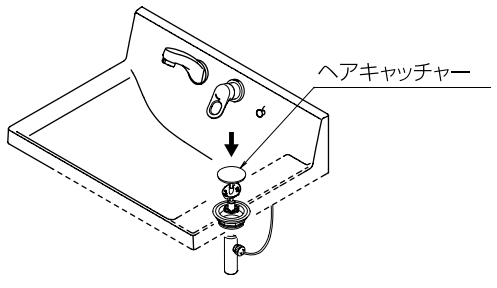
(4)レリース本体を台座に通し、ナットで固定します。



(5)レリース本体の軸を引いた状態で、レリース本体の軸の先端に排水栓操作ツマミボタン(小袋に同梱)を取り付けます。(締め付けトルク200N·cm〔20kgf·cm〕以上)
※軸を工具で固定する場合は、軸がキズつかないよう、ウエスなどを巻いて保護してください。
※ねじには乾式の接着剤(赤)が塗布してあります。ボタンを取り付けると接着剤が硬化し始めますので、一度締めたボタンは外さないでください。



(6)洗面ボウルの排水口にヘアキャッチャーを取り付けます。

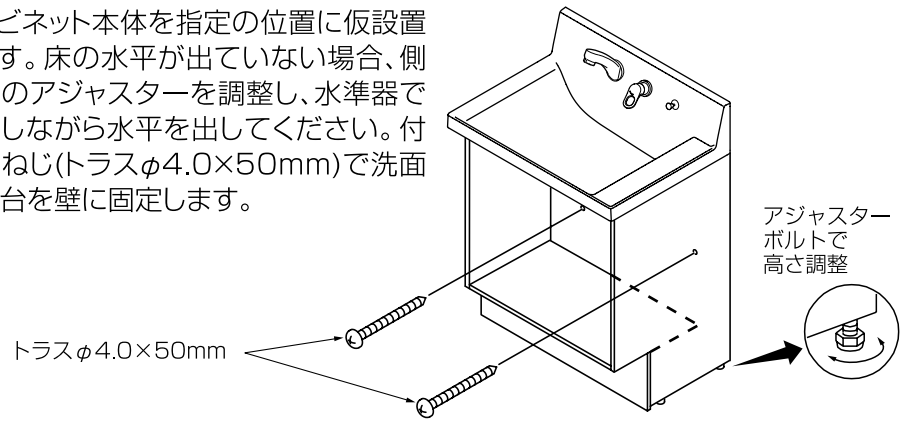


⚠ 注意

●**強く締めすぎないようにしてください。**
※排水口部分が破損し、漏水を引き起こす恐れがあります。
●**ナット類は手でしっかりと締め付けてください。**
※締付けが不十分だと漏水を引き起こす恐れがあります。

❹ 洗面化粧台の取付け

キャビネット本体を指定の位置に仮設置します。床の水平が出ていない場合、側板下のアジャスターを調整し、水準器で確認しながら水平を出してください。付属のねじ(トラスφ4.0×50mm)で洗面化粧台を壁に固定します。



お願い

化粧台の水平が出ないと破損、ガタツキが発生する恐れがあります。水平が出ているか、十分に確認してください。

※ 複数のキャビネットを設置する場合は、壁面に接するキャビネットから順に設置してください。

⚠ 注意

レリースワイヤーや水栓金具の給水・給湯ホースを化粧台と壁の間にはさまないように設置してください。洗面化粧台を運ぶ場合は、洗面ボウル開口を持たないでください。破損する恐れがあります。

❺ 止水栓の取付け

止水栓はメンテナンス･流量調整に必要なため、必ず取り付けてください。

※止水栓は別途手配です。

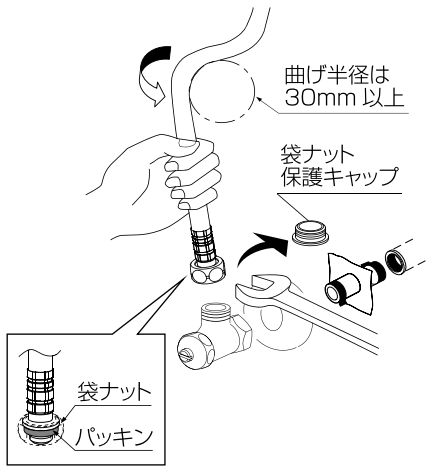
水栓金具の給水･給湯ホースの保護キャップを外し、ホースを手で持ちながら、止水栓にスパナ（対辺23）などで接続します。

〔壁給水の場合〕

※止水栓手配品番

一般地：LF-3K-MB

寒冷地：LF-3K-MB-U



〔床給水の場合〕

※止水栓手配品番（一般地、寒冷地共通）

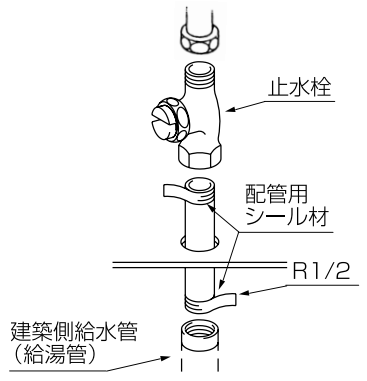
高さ−50mm：

LF-3SDK（340）-MB2

標準高さ：LF-3SDK（360）-MB2

高さ+50mm：

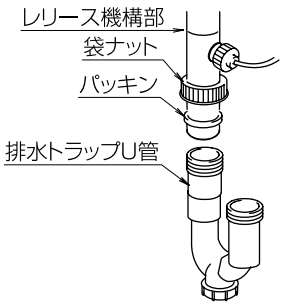
LF-3SDK（410）-MB2



❻ 排水トラップの取付け

【取付前の確認】

●レリース機構部、オーバーフローはあらかじめ化粧台に取り付いています。レリース機構部、オーバーフローの袋ナットがゆるんでいる場合は3.5N･mで締め付けてください。



【排水トラップ取付時の注意】

●袋ナットは手でしっかりと締め付けてください。

●あらかじめレリース機構部下部に袋ナット、パッキンを通し、それから排水トラップU管を差込部の最後まで入れてください。

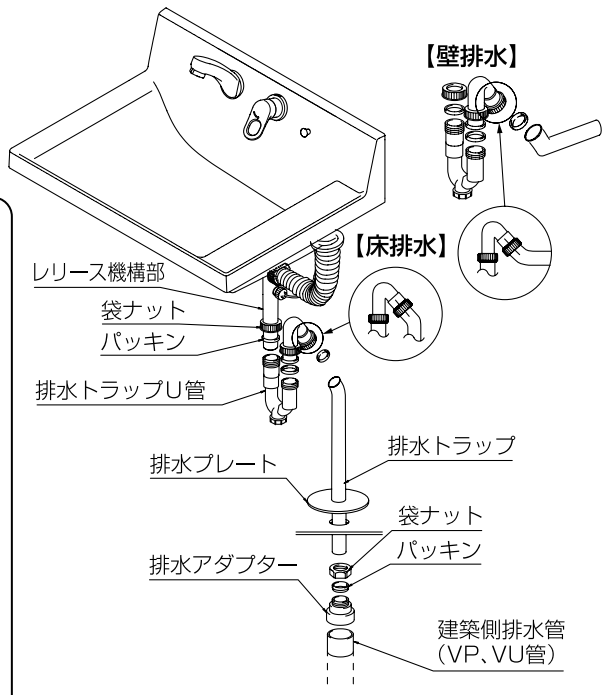
●床排水の場合、建築側排水管に排水アダプターを接着して固定してください。

●壁排水の場合は市販の排水アダプターを使用してください。

●建築側排水管と開口部にすき間がある場合は、シリコンでコーキングしてください。

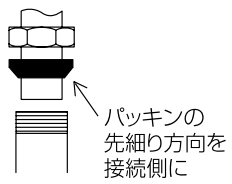
●配管の接着は接着面全面に塩ビ用接着剤を十分に塗り、奥まで十分に押し込み接着してください。

※排水アダプターの上部の袋ナットをしっかりと締めてください。排水トラップのガタつきや、臭気もれの原因になります。



⚠ 注意

●パッキンの向きに注意してください。



・管は奥に当るまで差し込んでください。

・袋ナットはしっかり締めてください。

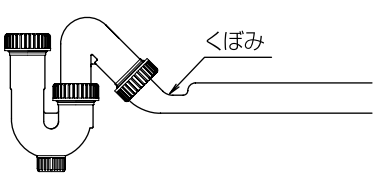
※漏水し、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。

⚠ 注意

●壁排水時、排水トラップのくぼみが建築側の継手やアダプターと重ならないように注意してください。

●接着には耐熱塩ビ用接着剤は使用しないでください。

※漏水し、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。



⚠ 注意

●ナット類は手でしっかりと締め付けてください。

※締付トルクの目安は3.5N･m です。

※締付けが不十分だと漏水を引き起こす恐れがあります。

●袋ナットは工具などで強く締めすぎないようにしてください。

※排水口部分が破損し、漏水を引き起こす恐れがあります。

●排水トラップは、印を合わせて取り付けてください。

※排水能力が悪くなり、漏水を引き起こす恐れがあります。

●引出しなどが排水トラップに干渉していないか確認してください。

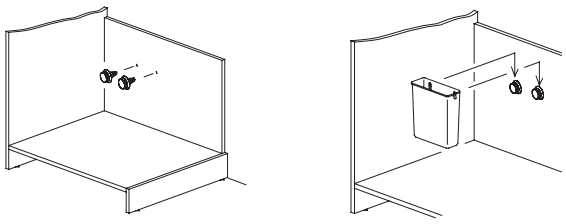
※干渉していると、接続部が外れ漏水を引き起こす恐れがあります。

●排水トラップのナットの位置を化粧台の奥側に向けてください。

※収納物が配管に当たり漏水する恐れがあります。

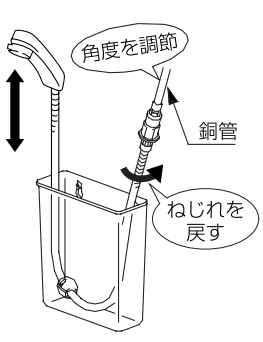
❼ 水受けタンクの取付け

キャビネット背板のガイド穴2ケ所に付属のクリップを差し込み、水受けタンクを取り付けます。

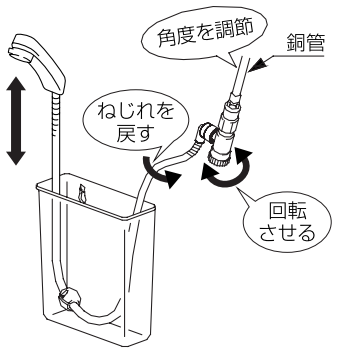


※水受けタンク取付後、ホースの動きを確認してください。

※ホースが止水栓と干渉したり、水受けタンクに収まりにくい場合は、次のように調節してください。

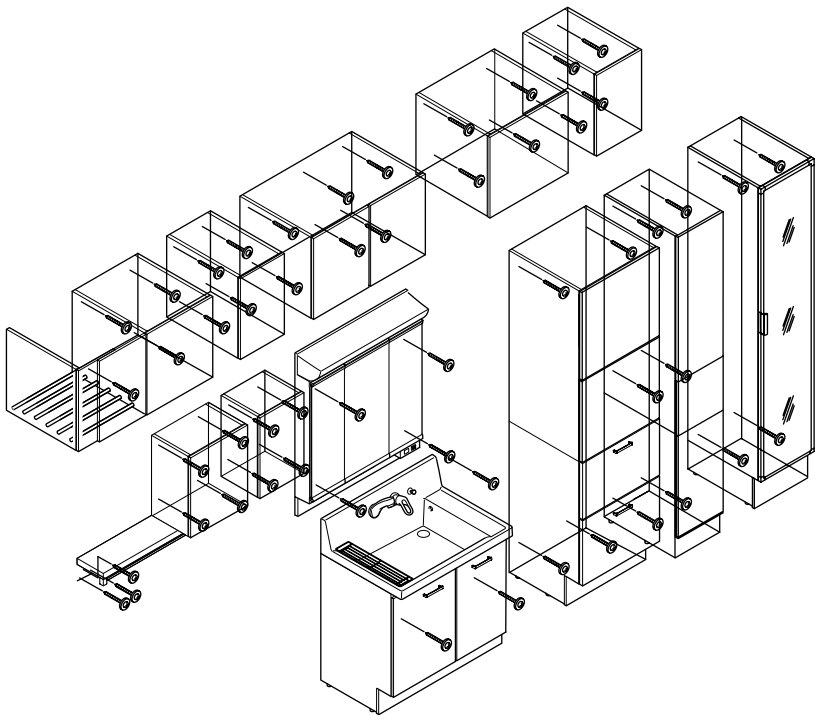


（一般地仕様）



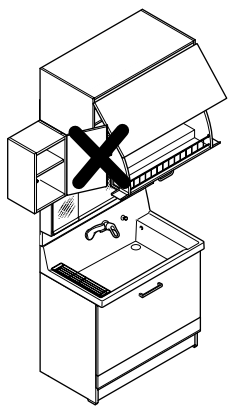
（寒冷地仕様）

周辺キャビネットの取付け



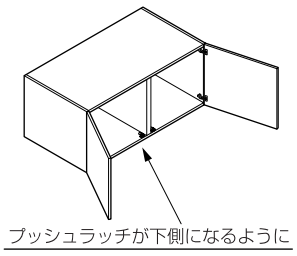
❶ ミドルキャビネット・ランドリーキャビネットの固定

キャビネットの天面をミラーキャビネットの上端に合わせて設置し、キャビネットの内側より固定用ねじ（ワッシャー付きなべφ 4.5 × 60mm）で壁に固定します。
※ランドリーキャビネット（間口調整付）は下部をご覧ください。
※アッパーキャビネット（ダウン機構付）の横に設置する場合は扉の吊本がアッパーキャビネット（ダウン機構付）の逆側にくるように設置して下さい。アッパーキャビネット（ダウン機構付）の収納部を降ろした場合、扉が干渉します。



❷ アッパーキャビネットの取付け

（1）ミラーキャビネットまたはミドルキャビネット・トールキャビネットの上に設置し、キャビネットの内側より固定用ねじ（ワッシャー付きなべφ 4.5 × 60mm）で壁に固定します。
（2）隣接するアッパーキャビネットがある場合は連結用ねじ（φ 4.0 × 25mm）で固定します。※間口調整付は下部をご覧ください。

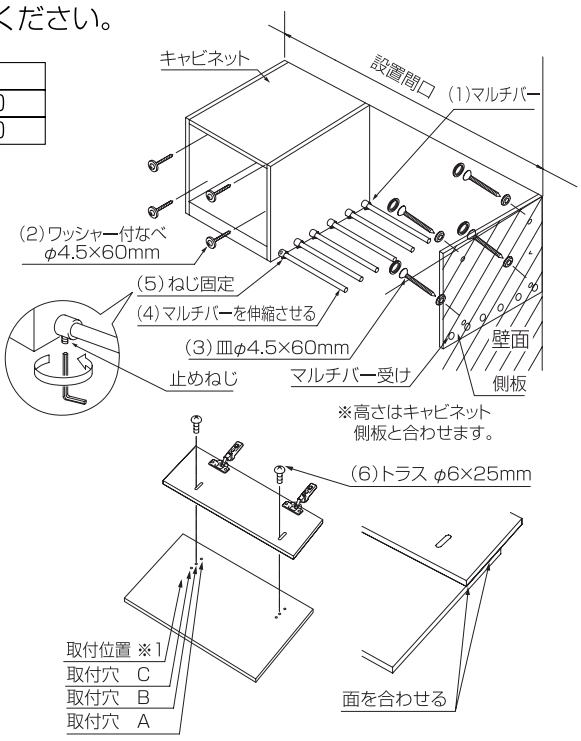


❸ アッパーキャビネットの取付け（間口調整付）

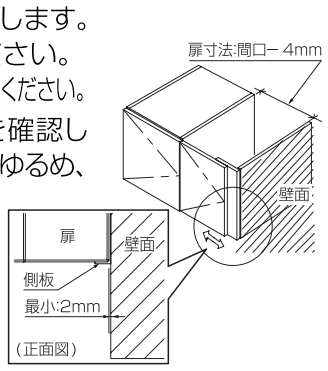
詳細については同梱の「取付上の注意」をご参照ください。
設置前に壁との間口を確認してください。

品番	取付間口
ARU−655FL（R）	W650～710
ARU−755FL（R）	W750～810

右図は化粧台に向かって右に設置するRタイプです。側板は必ず壁面に固定して下さい。
（1）マルチバーをキャビネットに差し込みます。
（2）キャビネットを取り付けます。
（3）側板を側面の壁に取り付けます。
※左右側板の水平が出ていることを確認してください。
（4）マルチバーを側板まで伸ばし、マルチバー受けに通します。



（5）六角レンチを使用して止めねじで固定します。
※六角レンチ、止めねじは同梱部品です。
（6）扉を調節します。扉（2枚）を重ね合わせ、固定します。
※取付位置は扉固定ねじ取付位置をご確認ください。
※扉の寸法は、キャビネットと壁面間の寸法に対して−4mmとしてください。
（例）376mm 扉の木口の下面が合っていることを確認してください。合わない場合は扉の固定箇所を一度ゆるめ、固定しなおしてください。



間口		※1
ARU−655FL（R）	ARU−755FL（R）	取付位置
W650～670	W750～770	取付穴A
W671～690	W771～790	取付穴B
W691～710	W791～810	取付穴C

（7）扉を壁面から2mm 以上離して扉が壁と干渉しないことを確認してください。
※壁と干渉しキズがつく恐れがあります。

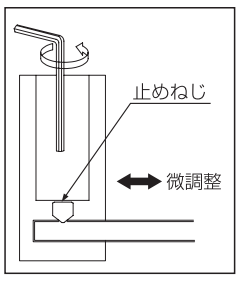
⚠ 注意

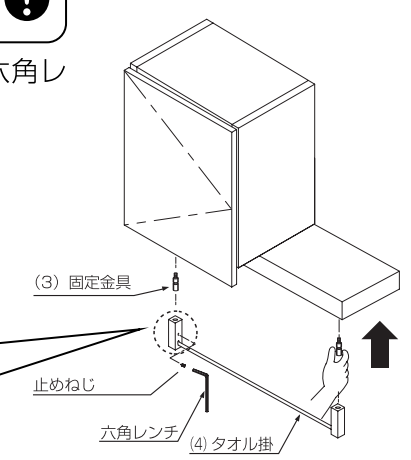
固定金具を締め込みすぎないでください。
空転をおこしガタつきの原因になります。

(4) タオル掛を固定金具に差し込みます。六角レンチを使用して止めねじで固定します。
※六角レンチ、止めねじは同梱部品です。

ワンポイント

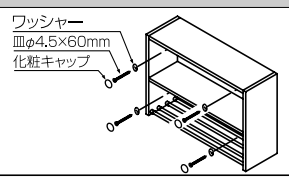
タオル掛が長い（または短い）場合は、タオル掛両端の内部組付ねじをゆるめて微調整することが可能です。





❹ ランドリーキャビネットの取付け

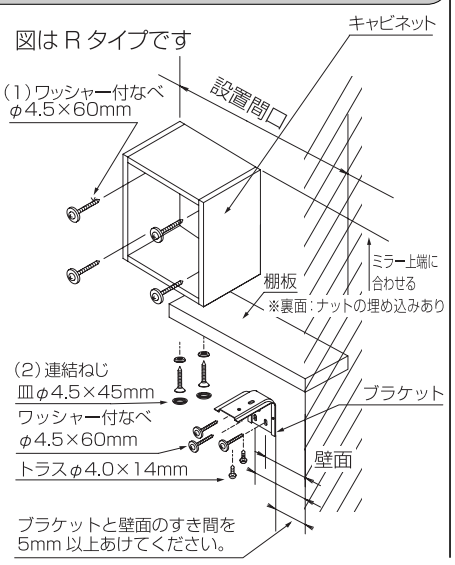
キャビネットの上面をミラーキャビネットの上端に合わせて設置し、キャビネットの内側より固定ねじ（皿φ4.5×60mm）、ワッシャー、化粧キャップで壁に固定します。



❺ ランドリーキャビネット（間口調整付）の取付け

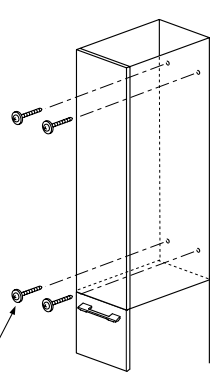
間口	
ARK−652FL（R）	W650～710
ARK−752FL（R）	W750～810

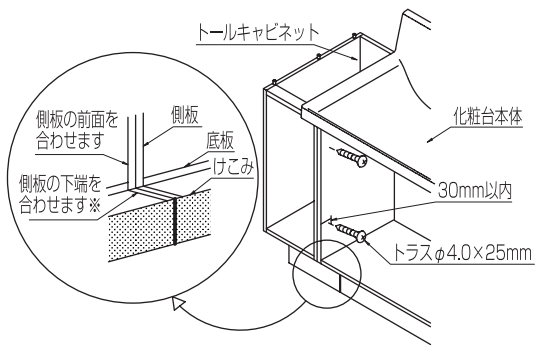
右図は化粧台に向かって右に設置するRタイプです。扉の干渉防止のため扉の吊元は右にして下さい。
(1) キャビネットを取り付けます。キャビネットの上端をミドルキャビネットまたはミラーキャビネットの上端に合わせて下さい。
(2) 棚板の水平が出ていることを確認してブラケットおよび連結ねじで棚板を取り付けます。ナット部が埋め込まれている方が裏面です。
(3) 固定金具を棚板裏のナット部にネジ込みます。



❻ トールキャビネットの取付け

(1) 下部キャビネットを洗面化粧台のとなりに仮設置します。
(2) 高さが合わない場合はトールキャビネット（下部）のアジャスターボルトで調節してください。
(3) キャビネット上面のダボに上部キャビネットをはめ込みます。
(4) キャビネットの内部より、上部４本、下部２本の固定用ねじ（ワッシャー付きなべφ 4.5 × 60mm）で固定します。
(5) キャビネット間にすき間が生じる場合は連結用ねじで固定します。





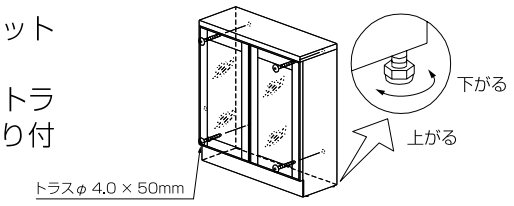
※隣り合う側板の上端には段差が生じる設計となっています。
扉のちりは、後述の扉の取付け・取外し、ちり調整を参照してください。

❼ L型収納パックの取付け

「L 型収納パック取付説明書」をご参照ください。

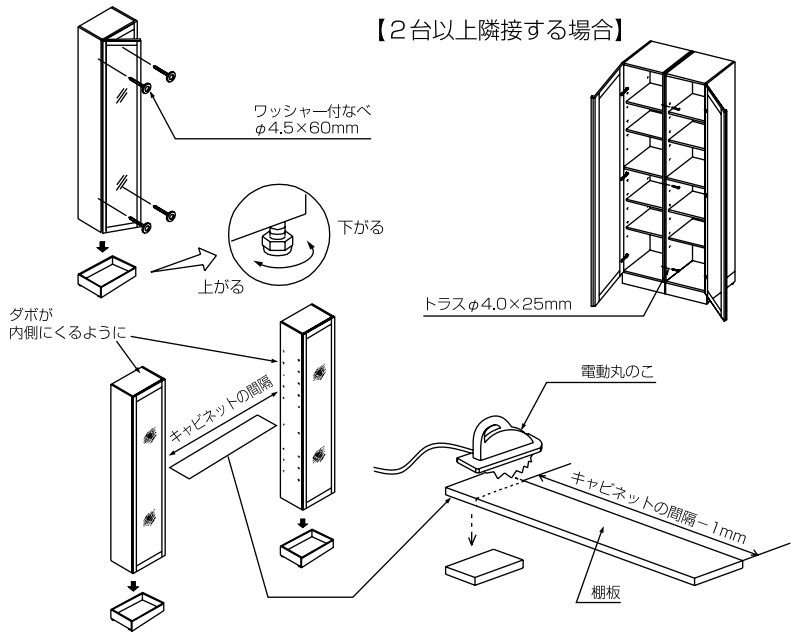
❽ 対面収納キャビネット（ベースタイプ）取付け

（1）アジャスターボルトでキャビネットの水平を調節します。
（2）キャビネットの内側よりねじ（トラスφ 4.0 × 50mm）で壁に取り付けます。



❾ 対面収納キャビネット（トールタイプ）の取付け

（1）アジャスターボルトでキャビネットの水平を調節します。
（2）キャビネット部の上下方向を確認して、けこみ部に取り付けます。
（3）ねじ（ワッシャー付なべφ 4.5 × 60mm）で壁に固定します。



⚠ 注意

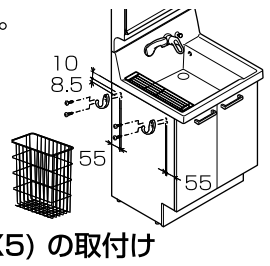
扉の吊元を確認し壁固定してください（LR共通仕様です）

※ 2 台以上隣接するプランで、キャビネット間にすき間が生じる場合は、連結用ねじ（トラスφ 4.0 × 25mm）で連結します。（蝶番の下方、上中下 3 か所）
※棚板（BB-LCW-T130）が付く場合ダボ穴が内側へくるようにキャビネットを設置してください。キャビネットのダボ穴にダボを差し込みます。棚板をダボの上に設置します。棚板をカットする場合はキャビネットの間隔－ 1mm でカットします。

オプション品の取付け

●サイドバスケット（BB-TD1-23）の取付け

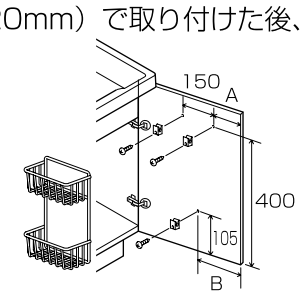
右図の位置に同梱のフックを固定ねじ（皿φ 2.7 × 16mm）で取り付けた後、バスケットを引っ掛けます。



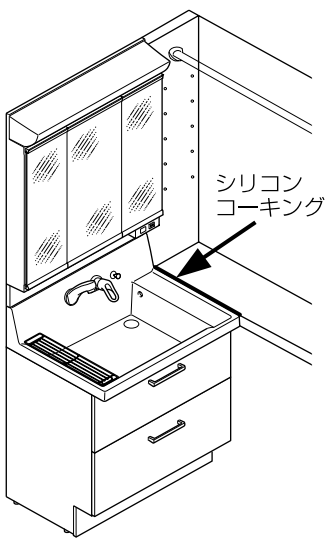
●扉用バスケット（BB-EX5）の取付け

右図の位置に同梱のフックを固定ねじ（皿φ 2.7 × 20mm）で取り付けた後、バスケットを掛けます。

間口	キャビネットタイプ	A寸法	B寸法
600	扉タイプ	60	135
600	引出タイプ	100	175
750	扉タイプ	60	135
750	引出タイプ	100	175
900	扉引出タイプ	60	135



洗面ボウル周囲のシール



●洗面ボウルと壁あるいは隣接キャビネットとの合わせ部をシリコンでコーキングします。
●L 型収納パックと隣接する場合は、棚板と洗面ボウルとの合わせ部にもシリコンコーキングしてください。

⚠ 注意

コーキングしないと、合わせ部から水が浸入しキャビネットや壁・床を傷める場合があります。

取付後の確認

■キャビネット本体の確認

下記項目を確認してください。
○取付ねじが十分に締まっていること
○ガタつきがないこと
※ガタつきがある場合はねじ位置をかえて取り付け直してください。
○扉のちりがそろっていること
※そろっていない場合は、後述の「扉の調節」で調節します。

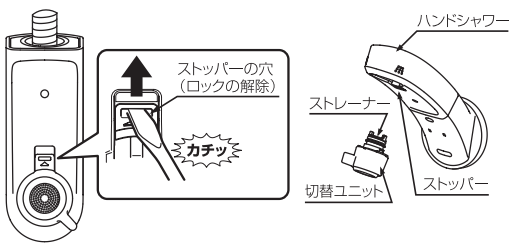
■吐水量、排水量の確認

（1）レバーハンドルを全開にしたときに、水側または湯側の流量が約 8L/min を超える場合は、湯水の流量が同じになるように、止水栓で調整してください。
※ポイント 8L/min の目安は、市販の洗面器 (容量 3L) をいっぱいにするのに約 25 秒です。
（2）排水栓を開け、水を一度に排出し、トラップ、排水管の各接続部からの水漏れのないことを確認します。

■通水後ストレーナーの清掃

※配管内の異物がストレーナーに詰まり、水栓機能を低下させる恐れがあります。

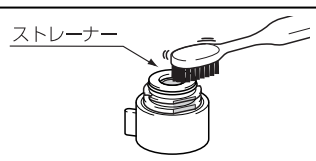
（1）ハンドシャワーの裏側にあるストッパーの穴に、指もしくはドライバーをいれてストッパーを外した後、切替ユニットをまっすぐ下に引っ張り外す。



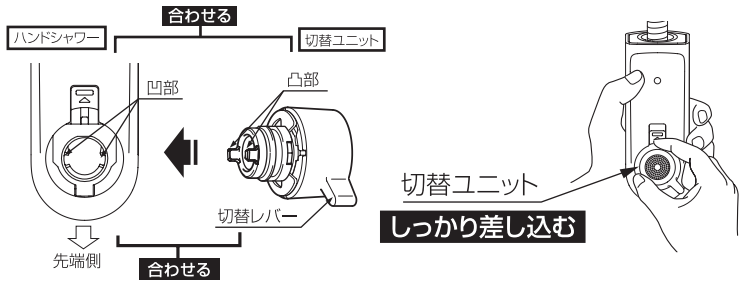
⚠ 注意

●ドライバーを使用する際はハンドシャワーにキズがつかないよう、必ず布を当ててください。
※ハンドシャワーにキズがつき、ケガをする恐れがあります。
●切替ユニットは回転させず、引き抜いて外してください。
※無理に回転させると、切替ユニットが破損する恐れがあります。

（2）切替ユニットのストレーナーの掃除をする



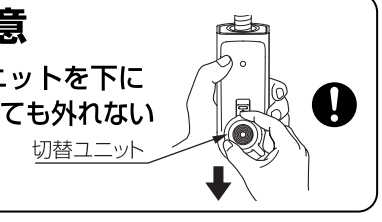
（3）切替ユニットの向きに注意しながら組み付け、切替ユニットをしっかり押し込む。

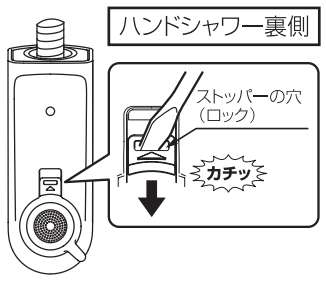


（4）ストッパーをロックする。

⚠ 注意

●切替ユニットを下に引っ張っても外れないこと。





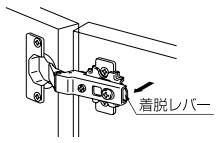
■排水レリースの確認

排水栓を数回開閉させ、スムーズに動くか確認します。

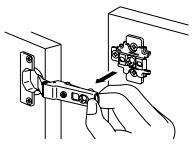
扉の取付け・取り外し、ちり調整

●扉の取外し方法

①着脱レバーを手前に引っ張ります。

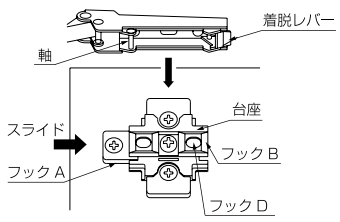


②蝶番を矢印の向きに引っ張って、取り外します。

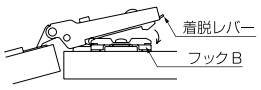


●扉の取付方法

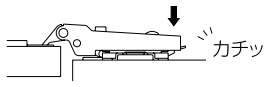
①扉を矢印の向きにスライドさせて蝶番の軸をフックＡに引っ掛けます。



②着脱レバーを、フックＢに合わせます。



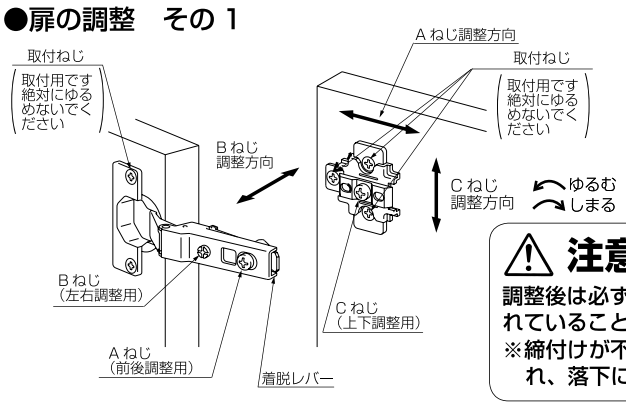
③蝶番を矢印の向きに「カチッ」と音がするまで押します。



⚠ 注意

扉の取付後は蝶番が台座へしっかりはまっていることを確認してください。
※扉の外れや落下によりケガをする恐れがあります。

●扉の調整　その１



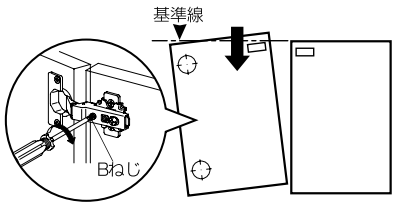
各ねじの調整量
Ａねじ…… 前方向 2.0mm、後方向 2.0mm
Ｂねじ…… 右へ回す→手前へ 2.0mm、左へ回す→後方へ 2.0mm
Ｃねじ…… 上方向 1.5mm、下方向 1.5mm

⚠ 注意

調整後は必ずＡねじ、Ｃねじが固く締め付けられていることを確認してください。
※締付けが不足しますと蝶番がゆるみ、扉の外れ、落下によりケガをする恐れがあります。

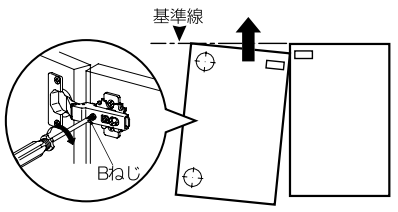
●扉の先端が上がっているとき

①扉上方の蝶番のＢねじを右へ回して調整します。または扉下方の蝶番のＢねじを左へ回して調整します。
②扉を閉めて確認します。
③正しい位置になるまで①、②を繰り返します。



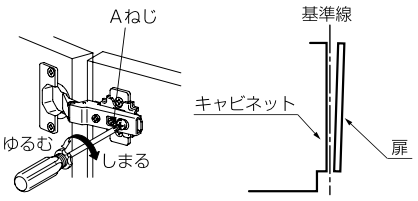
●扉の先端が下がっているとき

①扉下方の蝶番のＢねじを右へ回して調整します。または扉上方の蝶番のＢねじを左へ回して調整します。
②扉を閉めて確認します。
③正しい位置になるまで①、②を繰り返します。



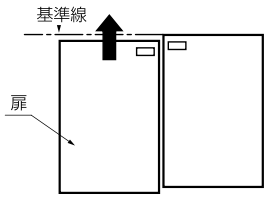
●扉と側板のすき間が上下異なるとき

①扉上方の蝶番のＡねじを左へ回してゆるめ、扉を動かして前後の正しい位置にします。
②正しい位置でＡねじを右へ回して締め付けます。



●扉の位置が上下異なるとき

①扉の上下の蝶番のＣねじを左へ回してゆるめ、扉を上下させて正しい位置にします。
②正しい位置でＣねじを右へ回して締め付けます。



アドバイス

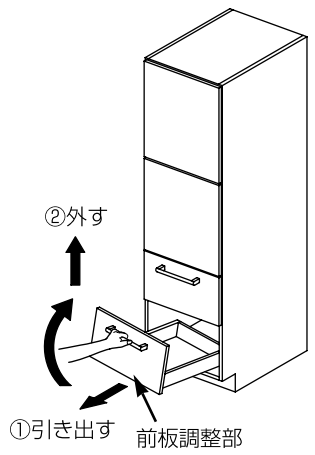
- **Ａねじ、Ｂねじ、Ｃねじは扉を取り付けたままで調整できます。**
- **２枚扉（両開き）の場合で、片方の扉だけで調整できないときは、左右の扉で交互に調整を行ってください。**

トールキャビネット引出しの取付け・取外し、前板の調整

引出しタイプの場合

1.引出しの取外し

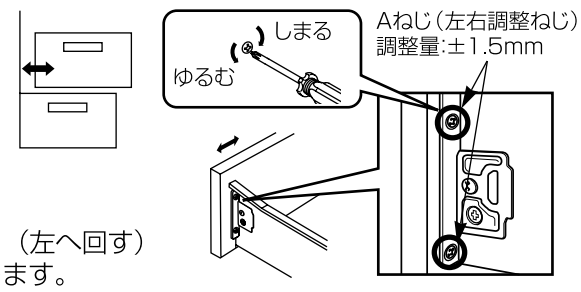
①引出しを最後まで引き出します。
②引出しを持ち上げて外します。



2.前板の調整

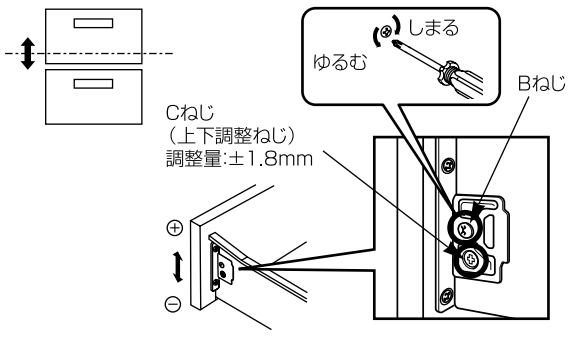
■左右方向の調整

①Ａねじを4ヶ所すべてゆるめます。
② 引出前板を左右に動かして調整します。
③ ①でゆるめたＡねじを固く締め付けます。



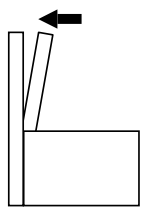
■上下調整

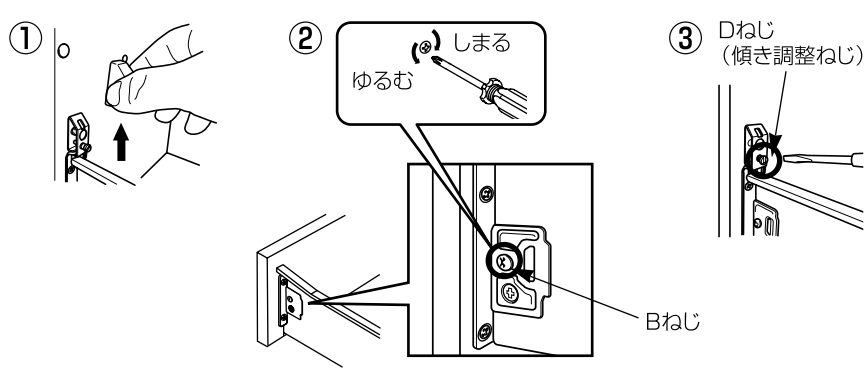
①Ｂねじをゆるめます。（左へ回す）
② Ｃねじを回して調整します。
　上に動かす場合：ねじを右に回す
　下に動かす場合：ねじを左に回す
③ ①でゆるめたＢねじを固く締め付けます。



■前板の傾き調整

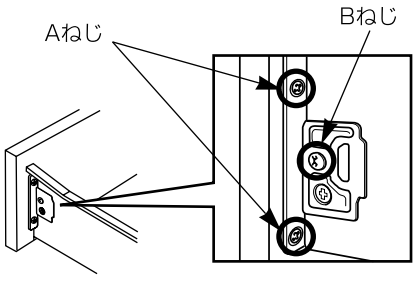
①カバーを上に引き抜いて外します
②Ｂねじをゆるめます。（左へ回す）
③Ｄねじを回して調整します。
　手前に倒す場合：ねじを右に回す
　後ろに倒す場合：ねじを左に回す
④ ②でゆるめた Ｂねじを固く締め付けます。
⑤ ①で外したカバーをはめ込みます。





⚠ 注意

調整後、ＡねじＢねじが固く締まっていることを確認してください。
※ねじがゆるんでいると、引出前板が外れて落下し、ケガをする恐れがあります。



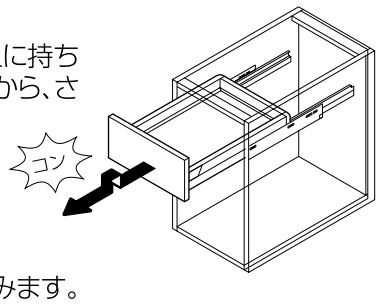
3.引出しの取付け

取外しと逆の手順で取り付けます。

フルスライドタイプ、トールキャビネット（ランドリータイプ）の取付け・取外し、ちり調整

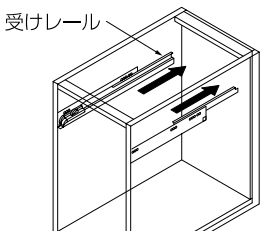
●引出しの取外し方法

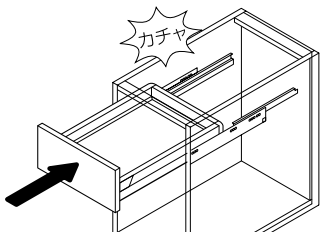
引出しを止まるところまで引き出し、一度少し上に持ち上げ（コンという音がしてロックが外れます）てから、さらに手前へ引き出します。



●引出しの取付方法

①ユニット本体側の受けレールを奥まで押し込みます。
②引出しを受けレールに乗せ、奥まで押し込みます。その際、カチャと音がしてロックされます。
※取り付けた後は、数回引出しを開閉させ正確に取り付けられている（ガタつき・異音がしないか）ことを確認します。

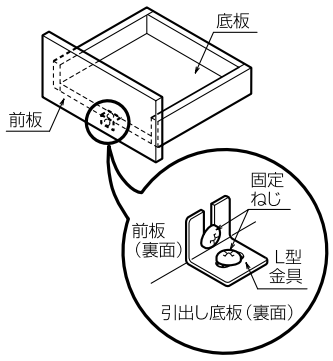




●引出しの調整

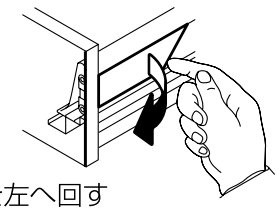
①調整前の準備

引出し前板裏面と引出し底板の間に、L型金具が取り付けてあります。引出し調整（前板の傾き調整以外）を行う際は、必ず固定ねじをゆるめて（金具が動く程度）から行ってください。
また、調整完了後は必ず固定ねじを締め付け直してください。

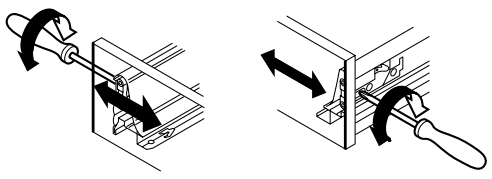


●引出しの調整方法　つづき

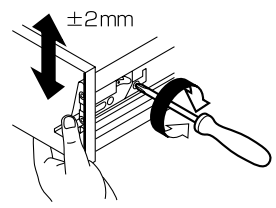
①引出し本体横の化粧カバーを取り外します。



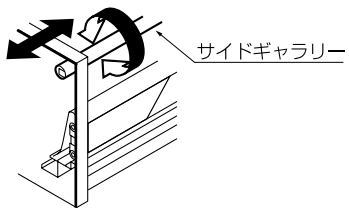
②-1 左右の調整
図のように、左右調整ねじを回して調整します。
右へ移動する場合:右側ねじを右に回し、左側ねじを左へ回す
左へ移動する場合:右側ねじを左に回し、左側ねじを右へ回す
※調整は、引出し本体の左右共に行ってください。
※調整範囲:左右方向へ各 1mm（計 2mm）程度



②-2 上下の調整
図のように、ねじを少しゆるめます。
引出し前板の上下位置を調整し、ねじを固く締め付けます。
※調整範囲:上下方向へ各 2mm（計 4mm）程度



③-3 前板の傾きの調整（サイドギャラリー付き引出しのみ対応可能）
図のように、サイドギャラリー（パイプ部）を回し、前板の傾きを調整します。
前板を手前へ倒す場合:
左へ（前板正面から見て）回す
前板を後方へ倒す場合:
右へ（前板正面から見て）回す
※サイドギャラリー後方の樹脂部品（グレー色）のねじ部にすき間が残りますが、このすき間は調整しろです。



引き出しタイプ取付け・取外し、調整

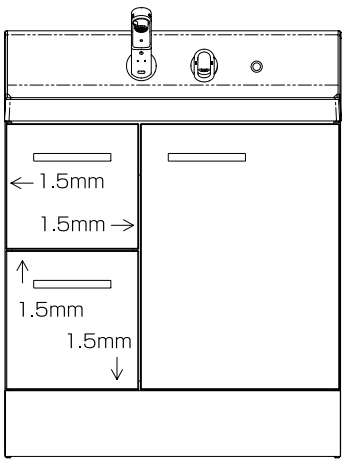
●引出しの取付け・取外し方法

トールキャビネット引出しと同に取付け、取外しします。

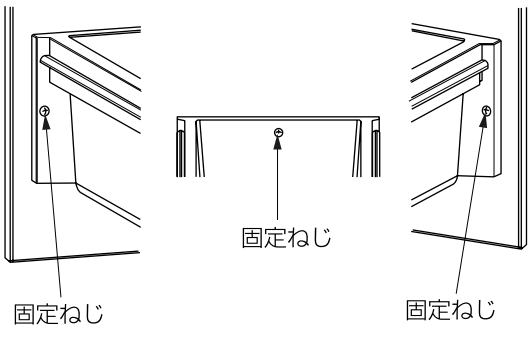
●引出しの調整方法

固定ねじを軽くゆるめて、引出し前板を少しずつ動かして調整します。

左右調整　右へ1.5mm、左へ1.5mm
上下調整　上へ1.5mm、下へ1.5mm



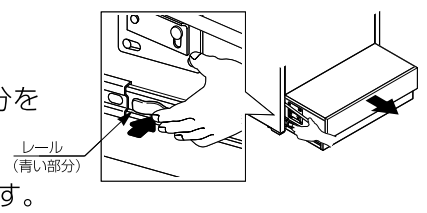
①引出しを取り外します。
②図の位置にある左右中央の固定ねじを手もみのドライバーでゆるめます。
③左右上下に調整します。
④手もみのドライバーで固定ねじを締め付けます。
⑤引出しを取り付けます。
⑥正しい位置になるまで繰り返します。



ステップスライドタイプ取付け・取外し、ちり調整

踏み台収納を取り外す

①踏み台収納を最後まで引き出します。
②踏み台収納の左右にあるレールの青い部分を指で押さえながらさらに手前に引き、踏み台収納を取り外します。
③ ①でゆるめた固定ねじを固く締め付けます。



踏み台収納を取り付ける

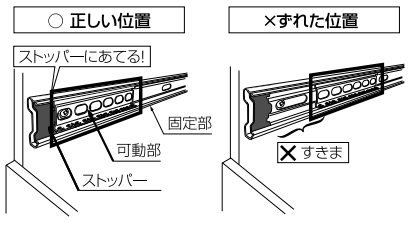
取外し方法の手順で取り付けます。

①キャビネット本体のレールを手前に引き出し、踏み台収納のレールと合わせます。
②踏み台収納を押し込むとカチｚツと音がしてロックされます。
③踏み台収納の左右にあるハンドルを引き上げてロックを解除し、収納を奥まで押し込みます。

⚠ 注意

●踏み台収納を取り付けた後は、数回開閉させ正確に取り付けられている（ガタつき、異音がしないか）ことを確認してください。
※正確に取り付けられていないと、踏み台収納が使用中に外れてケガをする恐れがあります。

●引出しを取り付ける際のご注意
※レール内部の可動部の位置に注意して取り付けてください。ずれた位置で取り付けた場合、レールが破損し、動作不良の原因となる恐れがあります。



左右上下の調節

①前板調節部の固定ねじ2カ所をゆるめます。
②引出し前板を上下、左右に動かして正しい位置にします。
③ ①でゆるめた固定ねじを固く締め付けます。